

フランクフルト日本人国際学校・音楽科通信

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2024年度 **poco a poco** ♪

Nr. 6 2024年6月19日(水)

文責:プファイル・辰巳

## Matinee と Soiree

先号の演奏会情報でも紹介した通り、Matinee というのは昼間に開催されるコンサートや公演のことです。土曜、日曜日のお昼などに開催されることが多いです。お買い物の途中やお散歩の途中で、ちょっと立ち寄りという感じで、演奏時間が短いことも多いです。

Soiree はもともと夕方から夜にかけての集まりを指す言葉です。音楽会ですと、夕方少し早めに始まるコンサートのことをこう呼ぶことが多いようです。

## フルダの町で・・・

さて、5月末にフルダというヘッセン州の東に位置する町を訪ねました。電車でも1時間20分ほどで行ける距離です。この町にはマインツと並ぶほどの立派なドームがあります。そして立派なパイプオルガンもあります。1700年代に設置されたオルガンに1992年から修復がほどこされ、今では4段のマニュアル(手鍵盤)とペダル(足鍵盤)、そして70種類ものレギスター(音色を決める音栓)を持つ、堂々たるオルガンです。訪れた日がたまたま土曜日だったので、お昼のマティネーを聴いてきました。予想通り、迫力のある音色でした。

マティネーは、昼間の開催で、演奏時間も短いとあって、ご家族のみなさんで楽しんでいただけるコンサートではないかと思えます。フルダのオルガン・マティネーの情報を後述いたします。機会があれば聴きに行ってみてください。

フルダでは、ちょっとマイナーなミュージカルの公演もあります。「Die Päpstin (女性法王)」という、アメリカの作家 Donna Woolfolk Cross の歴史小説をミュージカル化したものです。小説の中にフルダの修道院のことが出てくるので、

この町で始まったミュージカルだそうです。このミュージカルも鑑賞してきましたのですが、なかなかの大作で見ごたえがありました。お城の劇場で鑑賞することができます。

フルダ音楽情報、最後のポイントは、この町がドイツで2大リコーダー製作会社に数えられる Mollenhauer (モッレンハウアー) の故郷であるということです。(もうひとつは北ドイツ発祥の Moeck メック社。)

日本では小学生から中学生まで教育楽器として馴染みの深いリコーダーですが、ドイツでも昔から愛され続けている楽器の一つです。モッレンハウアーやメックの木製のリコーダーは高価ですが、それぞれの木の材質により異なる響きがあり、プラスチック製とは違う、温かく柔らかな音色が出ます。ソプラノ・アルト・テノール・バスと高音から低音まで多種のリコーダーがそろってのアンサンブルは、素朴でぬくもりの感じられるハーモニーをかもし出します。

また、ヴィヴァルディやスカルラッティの時代(つまりはバロック時代)のリコーダー協奏曲などをチェンバロと弦楽器の通奏低音と共に聴くと、その高度な演奏技術に驚かされるような曲もあります。音量では後出のフルートに勝てないので、通常のオーケストラに入ることはほとんどないリコーダーですが、バロック音楽中心のコンサートでは、大活躍することもあるのです。

フルダのお話にもどりましょう。そのリコーダー製作会社モッレンハウアーの工房だった建物が、市の中心街に残っています。外壁には音符やパンフルートの絵などが描かれているので、見つけやすいです。現在の会社は少し郊外に移転しています。

ドイツでリコーダーの美しい音色を再発見して、木製のリコーダーを購入したいと思われる方もあるようで、Mollenhauer と Moeck の両社を紹介したこともあります。機会があれば、リコーダーの演奏会にもお出かけください。

## ちょっとだけ 音楽会情報

フルダ・ドームのオルガン・マティネー

2024年 6月、9月、10月の毎土曜日 12時5分～12時35分まで  
入場料 5€

フルダ・Internationaler Orgelsommer

2024年 7月21日、28日、8月4日、11日  
いずれも日曜日16時30分から 入場料 10€

